

第76回大阪府新型コロナウイルス対策本部会議 議事概要

- と き：令和4年5月18日（水曜日）14時00分から14時45分
- ところ：大阪府本館1階第1委員会室
- 出席者：吉村知事・危機管理監・政策企画部長・健康医療部長・福祉部長
（リモート出席）海老原副知事・教育長・府警本部警備部長

【会議資料】

会議次第

- 【資料1-1】現在の感染状況について
- 【資料1-2】現在の療養状況について
- 【資料1-3】感染状況と医療提供体制の状況について
- 【資料1-4】滞在人口の推移
- 【資料1-5】（参考）感染防止認証ゴールドステッカーについて
- 【資料2-1】府民等への要請
- 【資料2-2】専門家のご意見
- 【資料3-1】大阪モデルの見直しについて
- 【資料3-2】大阪モデル「警戒解除」への移行（緑色信号点灯）について
- 【資料3-3】専門家のご意見
- 【資料4-1】今後の感染拡大に備えた医療・療養体制の考え方について
- 【資料4-2】第六波を上回る感染拡大を見据えた病床の考え方について
- 【資料4-3】新型コロナ要介護高齢者に対応する医療施設・病床の整備について
- 【資料4-4】新型コロナウイルス感染症大阪府検査体制整備計画【改訂第3版】概要
- 【資料4-5】医療機関による発生届のHER-SYS入力促進
- 【資料4-6】大阪府「配食・パルスセンター」について
- 【資料4-7】新型コロナ患者の確保病床を有しない病院に対する感染対策支援体制の構築等の状況
- 【資料4-8】高齢者施設等の協力医療機関におけるコロナ治療対応促進

【知事】

- ・皆様お疲れ様です。
- ・大阪府の新型コロナウイルスの感染状況、方向性について、本日の本部会議で決定をしていきたいと思えます。
- ・現状ですが、第6波以降、感染が一定大きく抑えられた状況の中で、この間府民の皆さんにお願いをして参りました。年度変わりの集中警戒期間ということで、人が多く動く年度替わりの時期、警戒をお願いしたいということ、それからやはりゴールデンウィーク、人が多く動きますので、一層警戒しなければならないということをお願いをしてまいりました。
- ・その中で、この感染状況を見ますと、大きな山は起きていないというのが現状だと思っています。様々な分析の仕方はあると思えますが、そこは専門家の意見等も踏まえて、今後の判断はしていきたいと思っております。変異株BA.2への置き換わりも、ほぼ100パーセント、変異株への置き換わりも起き切ったという様な状況です。変異株への置き換わりが起きるときに大きな波は起きやすいですけど、それも大きくは出なかったというのが事実だと思えます。
- ・また併せて、ワクチン接種です。高齢者の85パーセントの方が3回目のワクチン接種をされて、全体で見ても、50パーセントの方が3回目のワクチン接種をされている状況です。そういったことも要素の一つとしてあるのだろうと思えます。
- ・その中で、とりわけこの間ずっと飲食店の皆さんに、「同一テーブル4人以内でお願いします。また2時間程度以内でお願いをします。」とお願いをしてきました。これはゴールドステッカー認証の店舗にも、府民の皆さんにもお願いをしてまいりました。ここを解除するかどうかについて、本日感染状況も踏まえて、専門家の意見も含めて、考えていきたいと思えます。
- ・また大阪モデルについてもそうです。今黄色信号が灯っている状況ですが、状況とすれば、緑の信号基準を指標としては満たすという状況になっています。本部会議で、感染状況等を踏まえて判断するという事になっているので、本日大阪モデルの信号基準を、黄色から緑にするかどうか、これを踏まえて考えていきたいと思えますので、よろしくをお願いします。
- ・また併せて、やはり基本的な感染対策の徹底、これをお願いする状況にもあると思えます。感染が大きく上がっていないとはいえ、3000人から4000人程度で推移する、高い水準で推移しているというの、また事実だと思っております。基本的な感染対策の徹底、マスク・手洗い・うがい・距離をとる、基本的な感染対策の徹底は、府民の皆さんにお願いをしてまいりたいと思えます。
- ・また第6波を踏まえて、非常に感染の拡大力が強い、拡大したと、第7波もその可能性がある、そしてとりわけ高齢者の皆さんが、非常に厳しい状況になりましたので、入院される方も、ほとんど高齢者という状況にも、感染拡大期にはなりました。高齢者の皆

さんをお守りするということ、できる限りここに力を注ぎながら、医療体制も強化すると。併せて、やはり社会経済をもとに戻していく、このウイルスと共存する道を模索していく、これも非常に重要だと思っています。この辺りについて、今日の本部会議で方向性を決めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

※資料1-1に基づいて、健康医療部長より説明。

※資料1-2に基づいて、健康医療部長より説明。

※資料1-3に基づいて、健康医療部長より説明。

※資料1-4に基づいて、危機管理監より説明。

※資料2-1に基づいて、危機管理監より説明。

※資料2-2に基づいて、健康医療部長より説明。

※資料3-1に基づいて、健康医療部長より説明。

※資料3-2に基づいて、健康医療部長より説明。

※資料3-3に基づいて、健康医療部長より説明。

【知事】

- ・現在の感染状況、そして病床の使用率、そしてワクチンの接種状況等、また専門家の皆さんのご意見も踏まえた上で、現在の大阪モデルの黄色信号については、5月22日の経過を持って、緑の信号に変えたいというふうに思います。
- ・またこれにも伴ってですが、府民の皆様に、この間、事業者の皆さんにも長らくお願いをしてきました、感染対策をとってくださっているゴールドステッカーの認証店での、同一テーブル4人以下、2時間程度以内という要請についても解除をしていきます。ただやはり感染の状況ということについては、今後拡大する可能性も当然ありますし、日々3000人・4000人の陽性者が新たに起きているというのも事実であります。府民の皆さん・事業者の皆さんには、基本的な感染対策の徹底をお願いいたします。また飲食店において、感染対策が十分にとられていない可能性がある、いわゆる非認証店については、引き続き4人以下、また2時間程度以内という、感染対策の徹底をお願いしたいと思います。
- ・オミクロン株に変わりましたので、大阪モデルの基準についても、それに合わせた形にしていく、これも必要なことだと思っています。今後新たに、今はなんとか抑えられている状況ですけども、新たに大きな波が起きない様にする、そのためにも基本的な感染対策の徹底が必要ですので、ここは府民の皆さん・事業者の皆さんにもお願いを申し上げたいと思います。けして感染が完全に収まっているという状況ではないということも、改めて認識をしなければならないと思っています。
- ・一方で申し上げた通り、この年度替わりの集中警戒期間や、あるいはこのゴールデンウィークの期間を踏まえた上で、大きな波にもなっていない。また社会経済を元に戻して

いくということも重要だと思っています。ウイルスと共存する道を模索することも重要だと思っていますので、黄色信号から、緑信号への変更、そしてこの緑信号を維持できる様に、是非府民の皆さん・事業者の皆さんの、日々の感染対策の徹底をよろしく願いたいと思います。またそういった観点から、各部局においても、様々な関係者との調整・発信等、よろしく願います。

※資料4-1に基づいて、健康医療部長より説明。

※資料4-2に基づいて、健康医療部長より説明。

※資料4-3に基づいて、健康医療部長より説明。

※資料4-4に基づいて、健康医療部長より説明。

※資料4-5に基づいて、健康医療部長より説明。

※資料4-6に基づいて、健康医療部長より説明。

※資料4-7に基づいて、健康医療部長より説明。

※資料4-8に基づいて、福祉部長より説明。

【知事】

- ・オミクロン株になって、非常に感染拡大力が強いが、重症率はそこまで強くない。これは専門家の先生もおっしゃっている通りで、現場も実際そういう状況です。ですので、どういう状況が起きるかという、これまでのデータグラフの様に、若い人や現役世代が、どんどんコロナ肺炎の重症化になるという状況にはなかなかない。
- ・ただ一方で、もともと抵抗力が厳しくなっている高齢者の方、あるいは高齢者施設にいらっしゃる方は、それがきっかけで厳しい状況になってしまう。なので、また自宅におられる方もそうです。入院される方もそうだし、お亡くなりになられる方も、ほとんどが高齢者の方ということが起きたときに、第7波に対する備えとすれば、やはり高齢者の方、あるいはリスクの高い方に、できるだけ早く治療を届ける、これの仕組みが重要だと思っています。
- ・そのために、また健康医療部の資料にもありましたが、高齢者の方が入院すると、逆にコロナとは違うところで、認知症が酷い状況になったり、悪化したり、あるいはADLが大きく低下する。その後のQOLという意味の、寝たきりになってしまう。入院という措置が果たして正しいのかという、そういった論点もあろうかと思っています。
- ・ですので、もちろんコロナで重症になる方に入院をしてもらうというのは当然なのですが、ただ今までとは少し違う観点も必要だろうと思っています。高齢者の方が住んでいる、あるいは居住している施設で、いかに陽性のときに早く、早期の段階で治療を届けることができるのか、これが重要だと思っています。
- ・また若い世代・現役世代の皆さんも、どこの病院に行っても良いか分からないという様なことにならない様にするためにも、やはり地域の医療に、このコロナについては、特別

な病気というよりは、地域医療の中で、オール医療で対応する、これが今後の方針として重要だと思っています。感染拡大力も強いですから、もういつどこで感染してもおかしくない状況なので、まさに地域医療を中心として、オール医療体制で、このコロナと向き合っていくことが重要だと思います。

- ・そういった観点から、クリニックや診療所におけるハースス入力、これは支援金制度の創設も、もちろんそうですけども、健康医療部からの働きかけ等もあって、40パーセントだった入力率、それ以外はファックス等でやり取りした訳ですけども、それが70パーセントになったと、非常に大きな伸び率だと思います。これは引き続き、是非お願いしたいと思いますし、そういうことで保健所の負担も大きく減ります。また患者さん本人にとっても早く登録されますので、初期治療にも繋がってくるということにもなります。ですので、この70パーセントを更に上げると、一筋縄ではいかないと思いますけども、引き続きの努力をお願いします。
- ・それからやはり大きく、非コロナ病院と高齢者施設における対応、今かなり強化してくれていますけども、これは施設にも協力していただいていることに、感謝を申し上げます。ここは非常に重要なポイントだと思っています。大阪では第6波でお亡くなりになられた、コロナでお亡くなりになられた方の、全体の60パーセントが、もともと高齢者施設にいらっしゃった方、あるいは病院で、別の病気で入院されていた方です。ですので、そこでクラスター等が発生することをいかに防ぐか、あるいはもう感染拡大力が強いですから、クラスターが発生した場合に、どういかに早く対応して初期治療をするか、これが非常に重要だと思っています。その観点から、非コロナ病院、今大阪全体で入院可能な病院は500あるのですけども、非コロナ病院、受け入れ病院が200病院、非コロナ病院が300ありますが、300のうち、これはもうそこで陽性者が出たら、初期治療はまずそこで対応する。病院ですから、こういったことをできる様にしてもらいたいということでやってまいりました。初期治療の登録が、300病院中256病院、86パーセント、これは非常に高い比率まで登録してくれたというふうに思っています。今後はこのネットワーク体制の強化、そしてその実力をつけていくということが重要だと思いますので、登録で終わりではありませんから、初期治療の実力をつけるということで、保健所検疫でネットワーク体制の強化をお願いいたします。
- ・そしてもう一つ、これは高齢者施設にも関することです。高齢者施設において、初期治療ができる、連携医療機関が、初期治療ができる、高齢者施設が、連携医療機関がある訳ですけど、協力医療機関、それが、コロナ治療ができるのが3割ということでしたが、この間福祉部、そして健康医療部の努力、支援金等の創設と、なにより施設側の協力もあって、3割が52パーセントまでに達したということが、ほんとうに大切なことだと思っていますし、またこの割合を高めるという努力も、今後もお願いをしたいと思います。とりわけ未確認が20パーセントありますので、この未確認の施設に対して、しっかり働きかけをして、できるだけ協力医療機関がコロナ治療できる様に、初期治療がで

きる様に、働きかけをお願いします。

- ・また働きかけをした結果、「どうしてもコロナ治療ができません」と、「協力機関では無理です」と、1000施設がそういったことを明言もされています。じゃあどうするかと考えたときに、ここはまず第7波がいつ来るか分かりませんから、「できないことをできる様にせよ」というよりは、できないことを明言されている以上、できるやり方を考える必要があると思っています。なので、この1000施設については、OCRTによる支援、これは大阪府がやっている専用電話ですけど、専用部隊ですけど、OCRTによる支援や、あるいは往診専用の医療機関で、今120以上手を挙げてくれていますので、そこに速やかに連絡をする体制をしっかりと整える。連携医療機関が無理ならば、そこに速やかにやって、連絡して「入所者の安全を確保してくれ」ということの徹底をお願いします。
- ・また「コロナ医療の協力はできます」と言っている施設も、やはり実力はばらばらだと思えますから、この実力を高めていく必要があります。なので、もし陽性が出た場合には、連携医療機関が「できる」と言っているところであったとしても、やはり非常に高いレベルや知見を持っている高齢者施設の往診であったら OCRT、ここにも連絡をしてもらって、そしていっしょに対応する。そして実際経験することで、今後更にその能力を高めるということ、これは費用等もかかりますけど、これはこちらでもしっかりと見ますので、その実力を高めていくということ、是非やってもらいたいと思います。これは陽性者が出た場合ですが、ここから僕が是非やってもらいたいと思うことなのですが、陽性者が出る前、比較的感染が落ち着いている今の間に、災害訓練・防災訓練の様な形で、コロナクラスター訓練を、是非やってもらいたいと思います。これは高齢者施設だけでなく、先ほどあった様に、300の非コロナ病院で256病院は、初期治療の登録はしてくれましたが、普段からコロナの入院者を受け入れていない施設、ここで感染が急拡大したときには、いずれにしても陽性者が出ます。またクラスターも発生することが、これは当然ありえます。そういったことを想定して、防災訓練・災害訓練の様な形で、コロナのクラスター発生訓練、これをやってもらいたいと思います。
- ・もしクラスターが発生したら、じゃあできる方法として、うちの病院ではこういう感染制御をとります。ここをグリーンとイエローに分けてこういうふうにします。ここに連絡をします。そういった手順をしっかりと確認して、いざ病院の中で、あるいは高齢者施設の中で陽性者が出て、クラスターが発生したとしても慌てることのない様に、適切に対応できる様に、訓練をお願いします。これは地震や津波等が起きることを想定した防災訓練をしている訳ですから、僕はこれとほぼ同種だと思っています。その施設において、単に登録等をするだけではなくて、あるいは協力医療機関に確認するだけではなくて、実際に陽性者が出た、クラスターが発生した、その時の手順・行動、それを施設ごとにしっかりとやってもらいたいと思います。やり方については、これは数等もありますので、ここはもう部局で練ってもらって、最も効果的なやり方を考えても

らいたいと思いますが、この第7波が来るまでに、その実施を、お願いをしたいと思
います。またその中で見えてきた課題については、その都度対応をしていくということも
ありますし、様々な支援金制度も設けていますので、その都度問い合わせがあれば対応
して、高齢者施設、そして非コロナ医療機関が、このコロナに一定対応できる力をつけ
ることが重要だと思っていますので、そこをよろしくお願いします。

- ・そしてもう一つ重要なのが、やはり初期治療ですから、最初の診療所、最初の検査所、
ここで初期治療をまず受ける、当然コロナに感染するのは高齢者だけではありませんの
で、若い世代も感染しますから、「なにもせずに、全員すぐ自宅」というのではなくて、
近くの病院・近くのクリニックに行って、対処療法であったとしても、お医者様に見て
もらって、その投薬を受ける、それが身近でできる様にするということが、非常に重要
だと思っていますので、初期の検査・診療医療機関、これを更に増やしていくというこ
とも、これは医師会への働きかけにも通ずることにもなりますので、これまでもお願い
をして広げてきていますけども、更に今後は地域医療の中でコロナの対応をしていくと
いうことが重要になると思いますので、よろしくお願いします。